

大田市 未来につなぐ森づくり構想の概要

〈林業・木材産業の成長産業化と森林の多面的利用の両立を目指して〉

大田市産業振興部森づくり推進室

1 構想策定について

(1) 構想策定の目的

森林資源が利用可能な時期を迎え、国内需要は国産原木の安定供給に期待するなか、需要に応じ、伐って、使って、植えて・育てることで山を若返らせ、地域の力により産業の振興と雇用の維持を推進、併せて森林の多面的利用の両立の実現を目指す

(2) 構想の位置づけ

大田市総合計画に基づく、森林・林業・木材産業等部門の基本計画

(3) 構想の期間

概ね25年先のあるべき姿を構築、情勢の変化に対応するため必要に応じて5年ごとに見直し

2 森林・林業・木材産業等の現状と課題

(1) 県等の動向

- 県内の森林資源が成熟期を迎え県産原木需要が増加するなか、原木生産技術者の養成・生産機械の導入、製材施設の新設・拡充やバイオマス原料生産・運搬用機械の増強など投資が展開
- 企業を中心にCSR活動の場として森林を活用するなど多様な森づくり活動が展開

(2) 大田市の森林・林業・木材産業等の現状と課題

- マツ資源が減少するなか、スギ・ヒノキは利用可能な状態。一方、原木生産は間伐主体であり製材加工等への質・量の安定供給に応じられていない状況
- 木材生産はマツ木材製品ブランドに加え、生産量の増加が見込まれるスギ・ヒノキを活用した高品質・高付加価値化製品の開発が不可欠
- 森林所有者を取りまとめ林業経営を集約化し良質な原木の安定供給と適地適木による再生、適期・適作業などにより災害に強い森づくりを推進することが課題
- 教育・環境などの分野と連携し市民等による多様な活動が展開、森林への意識が高まるなか更なる理解促進の取り組みを強化することが必要

3 大田市が目指す森林・林業・木材産業等

(1) 目指すべき方向

森林・林業・木材産業の成長産業化と森林の多面的利用を両立した地域の実現

(2) 基本的方向

- ①豊富な森林資源と木材産業を活かす「森林を活かし地域産業を伸ばす」
 - ②森林の有する機能を未来に引き継ぎ、市民・地域・産業で享受する「森林を守り育て公益的機能を伸ばす」
 - ③産業や公益的機能を伸ばすため、幅広く森づくりの意義を知ってもらう「森林を使い次世代につなげる」
- の3つを取り組み展開の柱として、関係者が一体となり強力で推進

(3) 重点施策

1) 森林を活かし地域産業を伸ばす

- 間伐に加え主伐による原木生産の取り組みを加速化するなど、原木生産コストを低減し原木増産を推進。併せて、海外などへの販路拡大の可能性を研究
- 原木生産技術者の早期育成、森林所有者へ伐採収支・再生とその後の保育に係る経費を説明する高度な人材を有する事業体を育成
- 原木生産と製材ニーズ情報を共有する仕組みの構築、市有林を核とした原木市場との供給協定締結や、商流と物流分離による流通コスト削減など安定的かつ効率

的な原木供給体制を強化

- ブランド力を有するマツ製品の更なる商品化、J A S 認定に加えヤング係数表示による強度性能の確かな製品供給や、大径化にともなうスギ・ヒノキの新規用途の開発など競争力ある木材産業の成長産業化
- 原木生産から建築まで関係者が一体となり市産材認証制度を早期に構築し市産材供給を拡大、製材・設計・建築共同の常設営業拠点の開設検討や、家一棟分の木材製品を各社共同納入する仕組み検討など木材製品の販路・販売の拡大
- 大田市木材の利用促進に関する基本方針に基づく公共建築物等の木造・木質化推進

2) 森林を育て公益的機能を伸ばす

- 経営意欲と技術を有し小規模分散する森林を取りまとめ、面的まとまりをもって持続的に森林経営を行う事業体を育成し、持続可能な森林の管理・経営システムを構築
- 森林再生の初期投資の低減を図るため、低密度な植栽、伐採と植栽を同時に行う一貫型施業や、適地適木に加え抵抗性マツの植栽による永続的な建築資材の確保など確実な森林再生による良好な森づくりを推進
- 適期適作業や切り捨て間伐木の伐倒方向検討などの現場技術の向上を図り災害に強い森林づくりへの取り組み
- 小規模・分散する針葉樹林と広葉樹林を面的に捉え、モザイク状の配置となる森林整備により、森林の多様性と経営の両立の高度発揮を推進

3) 森林を使い次世代につなげる

- 市内全ての小学校に緑の少年団の結成を促進、市有林を学校林として活用など森林作業の体験の場の確保や職業紹介など知る機会やふれる機会を積極的に提供
- 企業等への出前授業など学ぶ機会や市有林の分譲貸し出しなど市民の森林を利用した活動機会の拡大の取り組み
- 地域活動の周知・参画、活動に対する各種支援情報の提供などの取り組み
- 三瓶山麓周辺の木工館・キャンプ場・自然館サヒメル等と連携したうえで市有林内に散策路など体験型の利活用検討、石見銀山地域での竹の繁茂対策を県と連携して取り組むなど森林の多面的利用を推進
- 森林セラピーなど健康まちづくりや木工体験など山村地域の生活のなかで木とふれあい・親しむなど木育を推進

(4) 重点的に取り組みを推進する森林の区分

- 地域産業振興のため、循環型林業を積極的に推進
 - ・道路から300m以内の森林経営
 - ・50年程度の中伐期での原木生産
 - ・伐採跡地の確実な再生
- 上記以外の森林で各種支援策を活用し、公益的機能の維持管理
- 環境・景観・文化、または教育・観光など多様な森林の利活用の推進

4 25年後の大田市の森林・林業・木材産業の姿(成果・効果)

- 森林を活かし地域産業を伸ばす
原木生産量 9千 m^3 →53千 m^3 伐採技術者 0名→39名 木材製品出荷量 4,838 m^3
→5,800 m^3 公共建築物への県(市)産木材利用 100%
- 公益的機能を伸ばす・・・森林経営計画策定 8,565ha→19,272ha(～H33)
- 森林を使い次世代につなげる
出前講座 2回→10回(～H33) 緑の少年団活動 1,810人→3,600人(～H33)

5 構想の推進体制

推進体制の事務を森づくり推進室で担当し、下記関係者連携のもと、課題や推進方向の共有化、年度ごとの成果の検証、報告の実施

- 関係団体：森林組合・木材市場協同組合・木材協会大田支部・建築士会・建築組合連合会
- 民間活動 学識経験者：森林関係地域活動・森林等学識経験者
- 行政等：市・県